

田舎暮らしを楽しむ

(8)

佐藤 彰啓



眺望より農家が建っているような
日当たりのいい場所を選んだ方が無難

北海道や東北、信州など、いわゆる寒冷地に移り住もうと考える人にとつて、一番の心配事は「冬の暮らしはどうか」だろう。「春、暖かくなったら見学に行く」という人もいるが、観光旅行と同じ感覚で考えると失敗する。土地探しの鉄則は、寒い地方は冬に見学し、暑さが厳しそうなお土地は夏に見学すべきだということである。

北海道で積極的に移住者を受け入れている、ある自治体の担当者には「夏に物件を見に来る人は『冬のことを考えると、なかなか決められません。最

観光と同じ感覚ではダメ

土地探し(2)

も厳しい冬に来られた方は、これくらいの寒さならと決める方が多いですよ」と語る。

山梨県八ヶ岳南麓(なんろく)は冬の夜の気温はマイナス一〇度以下になるが、夏より冬が好きという人も多い。空気が最も澄み、雪をかぶった山々が燦然(さんぜん)と輝く。内陸性気候で晴天が多く、昼間はガラス戸越しに陽光が入れば室内は暖房も要らない暖かさである。これは都会で頭の中だけで考えても分からない。自

分で出かけて体験してみることが一番である。それができない場合、その土地の気候に慣れすぎた地元の人より、都会から移り住んだ人に体験を聞くことである。

次に物件選びで大切なのは「景観より住む環境を考える」とことである。「海が見える所」とか「山の眺望がいい」ということに、かたくなにこだわる人がいる。庭先から海を眺めるのは気分がいいが、夏の浜風は蒸し暑く体によくない。家や自動車の腐食が早い。景観と暮らしやすさは相反することが多い。

山がよく見える小高い丘の上に居を構えた人は、冬になると山から吹き下ろす風に悩まされることもある。周辺の農家は、山や林を背後にする日だまりの場所に多い。昔の人々は景観より住みやすさで場所を決めた。

部屋に居ながらにして山を眺められなくても、散歩に出れば済むことである。旅に出かけてホテルからの眺望は大事だが、「旅の景観」と同じような感覚で田舎探しをしないことである。

(ふるさと情報館代表)